神奈川浄青機関紙
No.32
発行責任者　渡部俊賢
発行浄土宗
神奈川教区
青年会
発行日　H.17.6.1

JOSEI KANAGAWA

浄青神奈川

大本山光明寺法主宮林昭彦台下御染筆

伝えること

浄土宗神奈川教区青年会
第十七期会長　渡部　俊賢

昨年四月、神浄青第十七期会長就任から多くの方々のお陰様を頂き、初年度を過ごすことができました。今期のテーマは「自信教人信」～今すべきこと～を掲げ、神浄青の三信条である自行・化他・和合を基に活動をしてまいりました。しかし、我が身を振り返ると、頭ばかりで考え、実行がなかなか伴わない自分がいることに気がつかされます。今年度も、「自信教人信」～今すべきこと～をしっかり胸に、活動していきたいと存じます。

初年度の活動はどちらかというと自行が多く、その一つとして「宗義研修会」が行われました。浄土宗青年僧侶としてするべきことは、先ず、法然上人の御教えを正しく受け止めることであります。林田康順先生をお迎えしての「宗義研修会」は年四回行われ、大変ありがたい講義であったことは勿論ですが、私自身一番感じたことは、林田先生の、法然上人様の御教えを伝える熱意の凄さでした。大変多忙なスケジュールの中でも、「一人でも多くの人に、正しい御教えを伝えなければ。」という姿勢こそ、私たちが学ばなければならないものであったように思います。また、法然上人の御教えを伝えることが私たち浄土宗僧侶の使命でもあります。

それを受けて、今年度は事業の一つとして、三浦組光雲寺副住職慶野匡文先生を講師にお迎えし「布教研修会」を年四回行います。布教が苦手な人もいるとは思いますが、檀信徒等聴衆に直接語りかけることを学ぶことは大切なことでしょう。先生より布教の基本知識を学び、各組より一名、布教実演をする人を出し、先ず、会員の中で布教の実演をしてもらう方法で行いたいと思います。今まで、布教をしたことがない人、すでに、布教経験の豊かな人もいるとは思いますが、他の人の布教実演を見ることによって、気がつき、得るものも多いと思います。

そして、十一月十九日（土）には、浄青会員と一般檀信徒の「大別時念仏会」を大本山光明寺で行います。「大別時念仏会」は浄青会員が布教し、一般檀信徒と共に、お念仏をさせて頂く、自行・化他・和合の事業です。昨年の「浄青神奈川」で大本山光明寺法主宮林昭彦台下が「申すまでもなく浄青活動の根幹は菩薩道の実践ですが、自行化他の中、むしろ化他行の中に自利を求める行動をおこし体得する姿勢が求められます。」という一文は、浄青の指針として受け止めさせいただくものでありましょう。多くの人と共に念仏行を行い、弥陀の本願、法然上人の御教えを伝えることができ、自分自身の研鑽の場となり、参加された方が喜ばれるひと時となるような別時会にしたいと考えています。

また、昨年は、国内外を問わず、災害の多い一年でありました。神浄青では「新潟県・福井県豪雨被害義捐金托鉢」と「新潟県中越地震被害義捐金托鉢」の二回の緊急義捐金托鉢と、例年の十夜托鉢を行いました。しかし、それ以外にも、多くの災害があり、充分な対応がとれませんでした。災害は、緊急を要するものが多く、被災された方に少しでも早い対応が取れるよう、今年度より、「緊急災害募金箱」を設置し緊急災害用基金の充実を図りたいと考えています。OB会員の諸先輩方にもご協力をお願いいたしたく存じます。

尚、今年度は、九月二十八日（水）に「関ブロ浄青スポーツ交流大会」が、小田原組　都築顕道実行委員長のもと、「小田原市酒匂川スポーツ広場」「箱根湯本吉池旅館」を会場に神奈川浄青担当で行われます。担当教区として、他教区の参加者がみな楽しく過ごせるようご協力お願いいたします。

また、次年度、平成十八年度の全国浄土宗青年会「全国大会」（旧「中央研修会」）が関東ブロックで行われることとなり、神奈川浄青が担当教区となりました。神奈川担当は十六年ぶりのことであります。港南組　井上俊道実行委員長を中心に次年度の大会に向けて準備していくことになります。

両事業ともに神浄青会員一丸となって行わなければ成功は難しい事業であります。積極的なご参加お願いいたします。また、神奈川教区諸大徳をはじめ皆様のご指導、ご協力も重ねてお願い申し上げます。

「何ぞ必ずしも」

神奈川教区教区長　平野 仁司 上人

この程、総務省が発表した子供（十五歳未満）の数は一七六五万人と前年より十五万人減って二十四年連続で減少と報じている。歯止めのかからない少子化は各方面への影響も大となろう。

日本人の宗教離れも言われて久しい。寺院をめぐる環境が大きく変化している。檀家制度に基づいた現在の寺院のあり方を真に見つめ直す時にきているのではないだろうか。「寺離れしているけれども逆に寺に何かを求めている。」現代は心身共に皆がプレッシャーを感じ、心に悩みをかかえている。人は心のどこかで安寧を求めている。

先日、拙寺でこんなことがあった。朝の勤行前、ふと境内に目を向けると、一婦人が欅の大木の周囲に置かれている椅子を黙々と拭いている。仏さまに導かれての有難い布施の心と受け取らせていただいたが、一方その人も心に安らぎを感じているに違いない。

京都の四条通りに「何必館（かひっかん）」という美術館がある。梶川芳友館主によれば「何ぞ必ずしも」と物ごとこれで良しと決めず、疑ってみる、というのがこの意味だそうである。

若い時こそ流れに唯身をまかせるのでなく時には立ち止って別の角度から寺を見つめ直すことも重要だ。

「檀信徒が心向けてくれる寺に」を合言葉にそれぞれの立場で是非、足元にある小さな事柄からでも積極的に取り組んでみよう。及ばず乍ら教区としても応援の手は惜しまない。お寺を強くしよう。魅力あるものにしよう。寺の活性化は青年僧の奮起にかかっている。

この「大いなる死」を見よ

神奈川教区教化団長　古林 肇道 上人

平成十三年一月二十六日夕、JR新大久保駅ホームから男が転落した。ラッシュ帯だったから助けようもない。その一瞬、二つの人影が飛び降りて救出の手をさしのべた。だが、警報けたたましく走り込んできた電車にはねられ、三つの命は瞬間にして消えた。

救援犠牲の二人は韓国人留学生・李秀賢さんとカメラマン・関根史郎さん。李さんには故国に愛しい恋人が、関根さんは老いた母親を残しての壮烈な最期だった。

翌日の夕刊で、その詳報を知った私は新聞社の論説委員に電話して、この一件の社説扱いを尋ねた。

その日の論説会議でも論議は沸いた。美談だが真似られては困るから社説では取りあげないという。

「これは宗教の課題だ」ともいった。同感だった。

このニルバーナ《大いなる死》を「忘我の大義」「無我の正義」と名付けてわが心に刻んだ。

開宗八百年を機に発足した「神浄青」は間もなく四十年になろうとしている。初代会長の平野師がこのほど、教区長に選ばれて、八百年大遠忌のお待ち受けに入る。開八といい、大遠忌という勝縁の先頭に同師がいる。これを偶然とはいいきれない。成満を願う聖意と受け止めたい。

「自行」と「化他」は神浄青の掲げる活動指針である。化他する前提に自行がある。たゆまざる求道の実践（自行）が実りある化他を実現させる。

だが、社会の価値観は多様化している。人生いろいろ、それぞれが発する情報もまたいろいろなのは当然である。それらを把握し、分析できる知恵と行動力をもつ浄青諸師への期待は大きい。

刻々変わる世界の動き、人命を平然と弄ぶ荒振る世相。そこから聞こえてくる慟哭。これらを受けとめる処に化他の原点がある。浄青各位の精進を願ってやまない。

平成16年度　浄土宗神奈川教区青年会　事業報告

月　日	内　容	場　所	参加人数
4月　5日(月)	関東三大本山別時念仏会	大本山増上寺	16名
15日(木)	第1回理事会	大本山光明寺	
26日(月)	定期総会、神浄青入会式・卒業式、宗義研修会	大本山光明寺	総会52名・研修会44名
5月　26日(水)	第2回理事会	大本山光明寺	
〃	新旧役員歓送迎会	鶴ヶ岡会館	49名
6月　1日(火)	機関紙『浄青神奈川』第31号発行		
15日(火)～16日(水)	第32回関ブロ浄青総会並びに研修会(埼玉教区)	浦和ロイヤルパインズホテル	44名
29日(火)	宗義研修会	大本山光明寺	28名
7月　2日(金)	大本山光明寺開山忌前清掃奉仕、第3回理事会	大本山光明寺	清掃奉仕46名
28日(水)～30日(金)	第57回夏期僧堂手伝い(関東地方教化センター・神奈川教区)	大本山光明寺	40名
30日(金)	新潟県・福井県豪雨被害義捐金托鉢…浄財201,328円を神奈川新聞厚生文化事業団を通じ被災地へ送金	高徳院	10名
8月　27日(金)	第34回全国浄土宗青年会中央研修会(北海道ブロック)	札幌後楽園ホテル	30名
9月　6日(月)	第4回理事会	大本山光明寺	
14日(火)	関東三大本山別時念仏会(神奈川教区)	大本山光明寺	41名(総数101名)
26日(日)	日想観別時念仏会	大本山光明寺	13名
30日(木)	法式研修会　法服について	大本山光明寺	28名
10月　8日(金)	大本山光明寺十夜前清掃奉仕、第5回理事会	大本山光明寺	清掃奉仕37名
14日(木)	十夜托鉢、十夜法要手伝い	大本山光明寺	9名
18日(月)	全国浄土宗青年会災害救援基金へ5万円を寄贈		
19日(火)	第22回関ブロ浄青スポーツ交流大会(長野教区)	長野　ホワイトリング　メインアリーナ	30名
26日(火)	新潟県中越地震被害義捐金托鉢…浄財127,094円を神奈川新聞厚生文化事業団を通じ被災地へ送金	JR鎌倉駅前	12名
11月　5日(金)	宗義研修会	大本山光明寺	24名
22日(月)	神奈川教区長杯争奪ソフトボール大会	平塚市長瀞野球場・ホテルサンライフガーデン	89名
12月　14日(火)	対内紙『NICE BOSE通信』第9号発行		
	第6回理事会、忘年会	横浜中華街　萬珍樓	忘年会54名
1月　17日(月)	第7回理事会	大本山光明寺	
24日(月)	宗義研修会並びに御忌別時会	大本山光明寺	研修会20名・別時26名
2月21日(月)～22日(火)	全国浄土宗青年会代表者研修会	大本山増上寺	7名
3月　2日(水)	インド洋大津波災害救援のため、20万円を全国浄土宗青年会災害救援基金へ寄贈		
9日(水)～10日(木)	他宗団見学(坐禅体験)	曹洞宗大本山永平寺	23名
14日(月)	第8回理事会	大本山光明寺	
23日(水)	日想観別時念仏会	大本山光明寺	11名
28日(月)	チャリティースポーツ交流大会…チャリティー募金15万円を、全国浄土宗青年会聴導犬アミちゃん募金へ寄贈	箱根湖畔ゴルフコース	現役会員20名・OB他　11名

平成17年度　浄土宗神奈川教区青年会　事業計画

月　日	内　容	場　所
4月　4日(月)	関ブロ浄青御忌詠唱奉納大会	大本山増上寺
5日(火)	関東三大本山別時念仏会	大本山増上寺
17日(日)	全国浄土宗青年会大別時念仏会	岡山　誕生寺
20日(水)	第１回理事会	大本山光明寺
27日(水)	定期総会、神浄青入会式・卒業式、布教研修会	大本山光明寺
6月　1日(水)	機関紙『浄青神奈川』第３２号発行	
10日(金)	第２回理事会、布教研修会	大本山光明寺
27日(月)～28日(火)	第３３回関ブロ浄青総会並びに研修会（茨城教区）	ホテルマロウド筑波
7月　4日(月)	大本山光明寺開山忌前清掃奉仕、第３回理事会	大本山光明寺
28日(木)～30日(土)	第５８回夏期僧堂手伝い（関東地方教化センター・神奈川教区）	大本山光明寺
8月　29日(月)	第３５回全国浄土宗青年会中央研修会（近畿ブロック）	スイスホテル南海大阪
9月　5日(月)	第４回理事会、布教研修会	大本山光明寺
16日(金)	神奈川教区長杯争奪ソフトボール大会	担当　京浜組
28日(水)	関ブロ浄青スポーツ交流大会（神奈川担当）	小田原市酒匂川スポーツ広場・箱根湯本吉池旅館
10月　上旬	大本山光明寺十夜前清掃奉仕、第５回理事会	大本山光明寺
14日(金)	十夜托鉢、十夜法要手伝い	大本山光明寺
11月　18日(金)	関ブロ浄青三大本山別時念仏会	大本山光明寺
19日(土)	大別時念仏会	大本山善光寺
12月	対内紙『ＮＩＣＥ BOSE通信』第１０号発行	大本山光明寺
7日(水)	第６回理事会、臨時総会、忘年会	未定
1月	第７回理事会	大本山光明寺
24日(火)	御忌別時会	大本山光明寺
	法式研修会	大本山光明寺
2月	全国浄土宗青年会代表者研修会	未定
	他宗団見学	未定
3月	第８回理事会	大本山光明寺
下旬	家族親睦会	マザー牧場（千葉県）
4月	関東三大本山別時念仏会（東京教区）	大本山増上寺

17年度の活動予定

京浜組

会長
水谷　知靖

昨年の4月7日に第17期新役員を選任し、活動目標を"共につくり・楽しむ。時間（とき）・場所"とし、平成16年度の事業がスタートしました。
前年度の事業報告は、毎月開催の『勅修御伝』、「法式研修会」や忘年会、新年会などでした。
前年度の活動を通じ、会員がひとつに結束する事の難しさを感じ得た一年でした。
本年度は4月13日に熱海後楽園ホテルにおいて「平成17年度総会」を開き、前年度に掲げたテーマの意味を踏まえて、今年度の事業を計画いたしました。
研鑽事業は、「『勅修御伝』講読研修会・港南、鎌倉組合同、毎月一回」・講師柴田哲彦上人、「法式研修会・大光院様主催」（講師佐々木敬易上人）、「賛助会員と会員の合同勉強会」などです。
そして親睦事業は、会員や賛助の方々と共に楽しみ、有意義なときを過ごせるような新事業を秋期ならびに年明け（海外参拝）に計画しています。
また、教区の親睦事業でもある「平成17年度　神浄青ソフトボール大会」の担当を務めさせて頂きます。まさに、"共につくり・楽しむ。時間（とき）・場所"となるように力を注ぎ取り組みますので、一人でも多くの方のご参加をお待ちしています。
本年度も、よろしくお願いいたします。

港北組

会長
石川　和弘

私が港北浄青第13代会長をお務めさせて頂いて、早くも1年が過ぎました。
◎活動内容
10年以上法式研修会を開催していますが、今年のテーマとしては、『引声』。我らの教区の中心を担う大本山光明寺で行われている十夜法要に出座出来るよう研修していきたいと思います。また恒例の港南浄青との家族親睦会は、今年は港南組担当ですので港南組様にお譲りしたいと思います。９月には暑気払い、12月には忘年会を行う予定です。
◎報告
既に報告されてますが、昨年5月15日（土）に専念寺大谷正信上人がご結婚されました。また今年4月14日（木）には龍安寺水谷竜也上人がご結婚されました。会員中６名が結婚式のお手伝いをさせて戴きました。また披露宴の催された八芳園のお庭の桜が大変綺麗でした。
桜の季節と言えば、今年も入会、卒業があります。
入会されましたのは私と同じ部内寺院からお2人、清林寺の渡辺清光師、念仏寺の西井和雅師です。これから一緒に組内はもとより神浄青などでもご活躍される事でしょう。
卒業されます方は、宗忠寺の夏見裕貴上人です。第16期神浄青会長を務められ、今年度まで相談役を務められます。私が大学生の時に会員の少ない中一生懸命活動されていた事、一緒に編集委員を務めさせて頂いた事など思い出は尽きません。
更に後一年、微力ではありますが、皆様にご指導ご協力を戴きながら務めさせて頂きたいとお願い申し上げます。

港南組

会長
石川　参天

去る4月12日、組浄青総会を無事に終えて、組会長も二年目に突入致しました。港南組浄青は昨年度、会員14名（新入会員3名）と、先ず先ずの会員数と成りましたが、各活動の参加メンバーは相変わらずというのが現状で反省しきりの1年でした、その様な中で、長年にわたり組浄青を支えて頂いた吉川瑞教上人が16年度を以ってご卒業となり、非常に残念なのですが、今後は賛助会員として私達の活動を見守って頂きたい思いです。
昨年の組総会にて賛助会員より、今後の浄青活動の幅を広げる為には女性会員を勧誘するべきとの助言を頂いたのですがなんと今年度より法安寺戸谷瑞生さんが新入会され、組としては初の女性会員（昨年唯一の収穫）となり、女性の視点から浄青活動をどのように発展してくれるか大変楽しみです。
今年度の組活動は布教研修会「勅修御伝」聖典輪読会（京浜組・鎌倉組合同にて8月・12月を除く月1回）を中心として茶道研修会（年3回）、浄青婦人会（年2回）、港北組合同家族親睦会、鎌倉組合同法式研修会及び歳末助け合い募金と、昨年と変わりありませんが、内容の充実と、参加会員の増加を計っていきたいと思います。今年度、神浄青では関ブロスポーツ交流大会の担当であり、組浄青より実行委員として、丸地裕信会員・石川仁恵会員が昨年度から都築顕道委員長のもと準備を進めていますが、関ブロ大会を筆頭に新規事業も組まれており、組浄青としても微力ながら貢献出来るよう努めて参りたいと思います。今年度も港南組浄青をどうぞ宜しくお願い致します。

高座組

会長
曽我　高順

高座組浄青会長に就任し、早いもので一年が経過いたしました。大勢の方のご協力を頂き、１６年度事業を無事展開することができました。この場をお借りして御礼申し上げます。
１７年度から来迎寺　見学明彦上人、蓮光寺　安藤尚人上人、同じく蓮光寺　安藤祥人上人の３名が新たに入会し高座組浄青の会員は２１名となり、ますますにぎやかになりそうです。
本年度も昨年度に引き続き法式研修会（塩沢智彦先生をお迎えし、月１回のペースでご指導いただきます。）、詠唱研修会（斎藤良典先生をお迎えし、月１回のペースで仏教や法然上人のみ教えをお唱えを通してご指導いただきます。）を中心に事業を展開し、恒例となりました７月の家族親睦会、１月の三部経輪読や、他組との合同事業なども展開してまいります。また神浄青、関ブロ、全浄の事業にも積極的に参加してまいりたいと思います。
本年度も高座組浄青一丸となって邁進し、すばらしい１年間にしてまいりたいと思います。よろしくお願い致します。

県内浄青8組平成

鎌倉組

会長
當間　伸行

去る4月12日、鎌倉浄青総会が行われ、平成17年度がスタートいたしました。
今年度より、貞宗寺・山口圓譽上人、眞福寺・安井浄心上人のおふたりが入会され、会員26名となりました。組内寺院ご住職並びにOBの皆様には、25名の方に賛助会員としてご支援をいただいており、厚く感謝申し上げます。
今期の鎌倉浄青は、浄青を研修の場ととらえ、会員の資質向上を第一の目標においております。目標達成のため、組役員力をあわせ、進んでまいります。
柴田哲彦先生のご指導による、法然上人のお伝記『勅修御伝』の講読研修会、港南組浄青との合同法式研修会、歳末助け合い托鉢、忘年会を開催いたします。講師に法儀司・福西賢兆先生をお迎えしての法式研修会を今年度も行います。昨年同様、日常勤行式、施餓鬼、六時礼讃など、おとなえする機会の多い偈文やお経を勉強いたします。普段おとなえするお経の意味をよく理解することで、教化者としての自覚や自信が生まれてくるのではないかと考え、この事業を今期の中心事業と位置づけています。また、組会員の神浄青事業への積極的な参加を促したいと考えています。
今年度も、充実した活動を行っていきたいと思いますので、何とぞよろしくお願い申し上げます。
追記：5月17日、良心寺・佐々木佑倫上人が入会され、会員27名となりました。

三浦組

会長
松原　尚樹

三浦組カラーを継承し、会員一人一人が新たな色を発見できればと、前期三浦組は、慶野上人による伝道研修会、吉水上人による法式研修会、芦別寺（杉浦定善住職）参詣北海道研修旅行、家族親睦バーベキュー大会、鎌倉組・港南組との合同托鉢、ビンゴ忘年会等、一年を通じて活動して参りました。各活動とも諸先輩方のご指導又ご協力を頂き、会員それぞれが新しい色の発見や発揮が出来たのではと思います。家族親睦バーベキューで生まれた寺庭や子供達の新たな「和」。北海道研修旅行で昼夜にわたって学んだ経験とそれを取りまとめる事の出来た若い会員の「力」。これらはまさに、これからの三浦組カラーに新しく生まれた色を濁すことなく混ぜ合わせ、今期も様々な活動を行なっていきたいと思います。第一弾として、杉浦上人による詠唱研修会を5月に予定し、前期同様、研修会・親睦会・托鉢また、今期は昨年の一回戦敗退という散々な結果で終わってしまったソフトボール大会に向け、若い選手の「強化日帰りキャンプ」を密かに考えております。突然の練習試合申し出の際にはどうぞ宜しくお願い致します。そして忘れてはいけません。三浦組伝統行事でもある海外研修旅行も予定しております。ご案内の際には、他組会員はもとより諸先輩のご参加をスタッフ一同心よりお待ち申し上げます。今期も三浦組をどうぞ宜しくお願いします。

中郡組

会長
斎藤　匡念

昨年度は富士方面（サファリパーク・オルゴール館）での家族親睦会に始まり、富士登山、中郡担当による神浄青ソフトボール等の行事をおこないました。それぞれ事故もなく会員共に良き思い出となったと思います。
また、それらとは別に私が願っていた念仏会ですが、福田・鷲見会員が率先し、昨年秋より自坊にて毎月1回の念仏会を継続して下さっていることが何よりも嬉しく思っています。さらに忘れてはいけないのが吉田会員の毎週日曜日の法話会です。私も詠唱を通してお念仏（法然上人）のみ教えを広めて行こうと現在女性9名、男性5名の檀信徒と共に楽しんでおります。
今期17年度は、各会員の法話の原稿をもとに勉強会を重ね、三部経の訓読会、三万遍の別時念仏会を行います。
親睦としては牧場（パン作りや陶芸、バーベキュー）での家族会、1泊2日の富士山頂登山（8／19～20）を開催します。また、県・各組浄青の勉強会や自行の実践、親睦会等への参加を心がけ、その情報をもとに、中郡組浄青も精進して参りたいと思います。

小田原組

会長
成田　昌弥

はやいもので2年目を迎えました会長の任も残りわずかとなるとともに浄青卒業も目の前に迫り、後の小田原浄青の更なる躍進を想い願い、何よりも皆が集まり、顔なじみとなって楽しく活動出来ればと心掛けておりますが、勤めている会員も多く、全員が顔を合わせる機会が少なく、それでも少しでも多くの会員が集まれるように、週末に企画を催すなどしておりますが、土曜だと翌日の法務に差し支え、日曜になると小田原ではお店がお休みで、なかなかうまく行かないでいます。それでも組と共催で林田康順先生をお迎えしての講義研修、成田光俊先生をお迎えして二度の法話研修と、更には小田原浄青主催として、長谷川光順先生による青年会会員を対象とした講義・講習と、それに引き続き、勤め等により、普段活動に出席出来ない会員を交えての懇親の食事会などを企画いたしました。また、年末には、毎年恒例となっている歳末助け合い托鉢募金を、新しくなった小田原駅構内の自由通路にて行い、多くの方の善意にて寄せられた総額7万9千2百円を赤い羽共同募金に寄付することが出来ました。本年度の事業としては、6月にOBを交えての懇親旅行を計画しています。今後も、何よりも先ず、小田原組の活性を念頭に活動出来たらと考えています。

平成17年度各講習会一覧

高等講習会

教化高等講習会
平成18年1月23日～25日
知恩院

総合学術大会
9月5日～6日
大正大学

法式関係

中央法式講習会
11月8日～11日
知恩院

詠唱関係

詠唱指導者養成道場
9月14日～16日
知恩院

宗義研修会報告　中郡組　吉田健一

去る、平成16年4月26日、5月29日、11月5日、平成17年1月24日の4回にわたり、大正大学専任講師林田康順先生を講師にお迎えし、『宗義研修会』と題し、ご講義を頂きました。これは、渡部神浄青会長が、平成16年度事業としてもっとも力を注いでいる活動のひとつであり、また多くの浄青会員の要望として実現したものであります。約2時間にわたる講義にもかかわらず、聴講者の一人一人の眼差しには、何かを得て帰ろうという姿勢が感じられました。

林田先生は、この研修会で我々浄青会員に対し、浄土宗僧侶としての強い自覚を促し、法然上人のみ教えを自信をもって人々に伝えて行くことが必要であることを強く訴えました。その根底には、先生の法然上人に対する熱い思いのみならず、我々青年僧侶を取り巻く現状に対する危機感が感じられました。聴講した全ての会員は林田先生の熱い思いに心動かされ、明日へ繋がる『何か』を感じ取ったことと思います。

神奈川教区長杯争奪ソフトボール大会報告　高座組　香川隆順

去る、11月22日（月）澄み切った青空のもと、平塚市長瀞野球場にて「神奈川教区長杯争奪ソフトボール大会」が行われました。当日集まった神浄青の数約90名。OBの皆様にもチームを組んで参加していただきました。

大宝寺、佐々木元洋上人による熱のこもった準備体操で、すでに己の体力の大半を使い果たし、今後の展開に一抹の不安を感じつついざプレイボール！　結果、京浜組が接戦の末OBチームを降し優勝。見事、教区長杯をその手におさめました。

ソフトボール終了後はホテルサンライフガーデンにて主催中郡組による懇親会が開かれ、各賞受賞者の発表や（ちなみにMVPは良忠寺・森本有史上人）『観無量寿経』を題材にしたクイズなどが行われ、とにもかくにも和合、笑顔の絶えない一日となりました。

新潟県・福井県豪雨被害義捐金托鉢報告

港北組　柴田文彦

平成16年7月、新潟県、福井県の両県においては、活発な梅雨前線の影響により、未曾有の集中豪雨に見舞われ、甚大な被害に遭われた。

この災害に対して、7月30日（金）に高徳院境内（鎌倉大仏前）をお借りして義捐金托鉢を行った。

事は急を要するために、急遽行なわれた托鉢ではあったが、今期～今すべきこと～を掲げる渡部会長の呼びかけに10名にも上る参加者があった。当日はあいにくの天気で、雨が降ったり止んだりのはっきりしない天候。それにも関わらず、お念仏を唱える中、多くの義捐金が集まり、被災された両県に、一日も早い復興を祈念しつつ義捐金を送ることができた。

奇しくも、両県とは原因が違えども、過去水害により甚大な被害に遭われた大仏様の前において托鉢が行えたのも、何かの仏縁と感じつつ、合掌のうちに托鉢に参加することができた。

新潟県中越地震被害義捐金托鉢報告

鎌倉組　成實洋史

平成16年10月23日夕刻、新潟県中越地震が発生。同月26日夕刻、渡部会長以下十余名の会員が集合。小雨の中、鎌倉駅前にて二手に分かれ托鉢を行い、十二万円程の浄財を集める事が出来ました。これほど迅速に会員が集合し行動しえた事は、今回のテーマ「自信教人信～今すべき事～」を命題とした、渡部神浄青会長の姿勢を顕著に表したものです。今回の浄財は神奈川新聞厚生文化事業団を通じて、寄付させて頂きました。

鎌倉・港南・三浦組合同托鉢報告

三浦組　松原尚樹

昨年12月18日、高徳院境内に於いて鎌倉・港南・三浦組による歳末助け合い募金を目的とした合同托鉢を行いました。当日は天候にも恵まれ、心温かい方々より75,000円もの募金が集められました。豪雨に台風、そして地震と災害が多くの人命を奪い、災害のつめ跡を今でも残しています。今期の活動テーマ「自信教人信」～今すべきこと～今、自分は何をすべきか?何が出来るのか?参加会員それぞれ、改めて考える事が出来た一日であったと思います。

高座組千礼拝仏名会報告

高座組　三浦康志

去る、1月11日（火）午前8時半より鶴林寺御本堂を会処とし開催されました。この千礼拝仏名会は、三部経輪読と交互に毎年行われる高座組の恒例行事で、本年も一昨年同様、仏名会の次第構成とし、参加者十数名にて行われました。礼拝の数を重ねていくうちに、普段の運動不足のせいか、体中が痛く辛かったのですが、他の会員の声に後押しされ千礼拝をやり遂げることができました。一人ではなかなか出来ないことが、皆でやればできるということを実感でき、高座組浄青があらためてひとつになれた良い仏名会でありました。

忘年会報告　事務局長　成田善俊

去る平成16年12月14日横浜中華街萬珍楼に於いて神浄青忘年会が行われました。普段の私的なものと違い大人数の忘年会はやはり盛大なものでした。顔ぶれはいつもとあまり変わらないのは残念ではありますが、大勢でお酒を飲む機会はそう多くはありません。楽しい時間を仲間と過ごしてから年を改めるのはやはりよいものです。教区長や歴代会長と親しく言葉を交わせていただけるのも酒席の有り難さでしょう。これからも良い年越しの行事であり続けて欲しいものです。

第30回　全国浄土宗青年会　代表者研修会報告　事務局長　成田善俊

去る平成17年2月21日から22日、大本山増上寺にて、「我々はこの現代社会に対して何が出来るだろう・・」のテーマのもと、第30回全国浄土宗青年会代表者研修会が行われ、神浄青からは7名が参加した。仏教情報センター事務局長・互井観章先生、浄土宗常任布教師・中原実道先生、大正大学専任講師・林田康順先生を講師にお迎えし、僧侶として口にする言葉の責任や重み、とるべき姿勢をそれぞれの立場からご教示いただき、大変有意義な研修会であった。

御忌別時念仏会報告　鎌倉組 石井康順

去る1月24日大本山光明寺にて御忌別時会が行われました。当日参加した多数の浄青会員による、心のこもった念佛、礼拝により、とても充実した別時会となりました。木魚の音と念佛の声が響き渡る本堂内は、別時の独特な雰囲気に満たされ、日ごろ念佛の足らない私にとって、とてもすばらしい時間でありました。

春季日想観別時念仏会報告　鎌倉組　伊香輪一暁

平成16年度春季日想観別時会は、3月23日（水）午後5時より大本山光明寺山門楼上で行う予定でしたが、雨天のため開山堂を会場に行われました。

当日は宮林台下御導師の予定でしたが、ご所用のため神浄青会長渡部俊賢上人を御導師に、神浄青会員11名にて厳修されました。残念ながら今回も光明寺開山で浄土宗三祖でもある良忠上人も御覧になったであろう夕陽を目の前に見ることはできませんでしたが、雨の中、堂内には力強いお念仏が響き渡りました。

関東三大本山別時念仏会報告　港北組　石川和弘

去る4月5日（火）大本山増上寺に於いて関東三大本山別時念仏会が行われた。当日は、素晴らしい天候に恵まれ、桜もお念仏の声を待つかのごとくの様であった。

関ブロ浄青及び増上寺有縁の十八教区（北海道、東北及び静岡教区等）浄青、多くの檀信徒と共に御忌大法要の晨朝法要に参列後、三縁山内に響き渡るお念仏をお称えした。その後、大殿前で記念写真、解散となった。

関ブロ浄青御忌詠唱奉納大会報告
三浦組　清水道善

去る平成17年4月4日、大本山増上寺に於いて、関東ブロック浄土宗青年会として「月影の御詠歌」を奉納致しました。それに先立ち大殿地下ホールでの練習から大変熱の入ったものでした。立ち位置の確認、お作法、歌い出しの音程やピッチと金田関ブロ理事長の並々ならぬ熱意を感じさせるものでした。

さて、いざ本堂裏に上がってみると私たちの出る午前の部は詠唱教司の白房の方ばかり。練習不足の私は戦々恐々でしたが総勢千人を超える人前でお唱えする事はとても気持ちよくとてもすばらしい経験でした。

マスコットキャラクター
シュンさま

平成17年度総会報告　事務局長　成田善俊

平成17年度の神浄青定期総会が去る4月27日に大本山光明寺を会場に行われ、出席者43名、委任状50名、合計93名をもって成立した。

同日が、神浄青草創期にご尽力を頂いた小田原組善光寺、松蔭英龍上人の本葬日に当たり、開会に先だち、全員でお十念をお称えし、松蔭上人のご回向をさせて頂いた。

渡部会長、夏見前会長の挨拶の後、平野教区長にご祝辞を賜り、審議に移り、平成16年度事業報告、収支決算の承認、並びに平成17年度事業計画、収支予算の承認がなされた。

審議終了後、各組の浄青活動の紹介。また、卒業式、新会員の入会式が行われ、渡部会長よりご卒業の先輩並びに新入会員へ記念品が贈呈された。

総会の後、今年度の事業である布教研修会が三浦組光雲寺、副住職慶野匡文先生を講師に迎え、「布教実践の前に」をテーマに行われ、出席会員皆真剣に聴き入り、大変有意義な研修会であった。

他宗団見学（坐禅体験）報告　京浜組　森本有史

去る3月9～10日にかけ、今期の神浄青事業の目玉の一つである、「他宗団見学（坐禅体験）」を曹洞宗・大本山永平寺に入山させて頂き、総勢23人参加のもと、永平寺での生活を体験させて頂きました。

大本山永平寺の荘厳な佇まいと、その中で厳しい修行の日々を送っておられる雲水さん（若い修行僧）の生活を少しばかりではありましたが、垣間見させて頂きました。曹洞宗といえば坐禅です。薄暗い禅部屋で聞こえて来るのは自分の呼吸の音のみ。自分自身を“無”にする難しさを知りました。食事作法・入浴作法・・すべてに於いて宗派間の違いに驚かされ、勉強不足を痛感させられる2日間でありました。

第1回チャリティースポーツ交流大会報告　小田原組　小俣慶樹

平成17年3月28日(月)に第1回チャリティースポーツ交流大会（ゴルフ大会）を箱根湖畔カントリークラブに於いて、OB会員10名、正会員17名、他教区その他4名の総計31名の参加をもって開催されました。この大会前後の日は素晴しい天候でありましたのに、大会当日にはまるで選ばれたかのような大雨風の天候でありました。従って普段の実力を出しきれずに惜しんだ方々も大勢いらしたかのように思われます。その中でも実力を発揮され見事優勝されましたのが、全国浄土宗青年会理事長・江口隆定上人(グロス92　ネット71.6)であります。渡部会長期最初のチャリティーゴルフ大会。全浄が支援しております『聴導犬アミちゃん募金』にこの大会を通じて計15万円の募金が大会出場者の協力のもと集められました。「一心専念・・」ならぬ「一“振”専念」、ひと振りに心を専念して、これからも又スポーツを通じてのチャリティー交流大会に参加できますことを祈念申し上げ報告にかえさせて頂きます。

豆知識

其の二　落語と説法「安楽庵策伝」

古典落語に「血脈」という演題があります。善光寺のお血脈を戴くと誰でも極楽に往けるので、地獄に閑古鳥が泣いている。困った閻魔大王が地獄にいる石川五右衛門を派遣して善光寺のお血脈を盗みに行かせる。首尾よく盗み出した五右衛門は、「こりゃあ、ありがてぇ」と芝居がかってお血脈を頭上に戴いたまま極楽に往ってしまった…。落語には良く僧侶や寺院が登場します。当時の人々の生活に仏教が深く関わっていた証しともいえるでしょう。実は、「落語」の起源を辿って行くとお坊さんの説法に行き着くといわれます。落とし噺（落語）の始祖は「安楽庵策伝」と言われております。策伝は天文二十二（一五五四）年美濃国（現岐阜県）、戦国の世の武将茶人として著名な金森家に生まれました。兄は飛騨高山城主金森長近。策伝は幼少の頃出家得度をし、後の浄土宗西山派大本山誓願寺の法主にまでなられた方です。策伝は茶人、歌人としても高名で、特にお茶を通じて秀吉や伊達政宗等と交友したと言われます。策伝は法名で、俗名は平林平太夫と名のっていますが、勿論本名ではありません。

策伝が活躍した安土桃山時代から江戸幕府が開かれるまでの日本は、戦国乱世の影響により、人々の道義退廃は進み、刹那的・享楽的な生活にあったといいます。そのような不安や焦燥感の中、彼等は説経（教）師の談を聞こうと寺に集まりました。人々は目まぐるしく変わる世相の中で、仏教を拠り所としながらも、「笑い」を求め、そこに安住の地を求めていたことが容易に想像されます。そのような時代の中に於いて、策伝は秀でた話術で人々を魅了したのみならず、彼の主著『醒睡笑（せいすいしょう）』に見られるように、豊富な知識と笑いのセンスで他の追随を許さず、当時の人々に笑いと安心を与えたのでしょう。そしてこの『醒睡笑』が現代でも落とし噺のテキストとして用いられていることを考えれば、彼を落語の始祖とすることに異論はないでしょう。現代でも落語協会会長の圓歌師匠のように、僧侶の落語家もいるように、落語と僧侶は浅からぬ縁で繋がっているようです。

※『醒睡笑』は一〇〇〇以上の小噺から編纂されていますが、中には現代では理解し難いものもあります。これらの小噺は大爆笑というものではないかもしれません。しかし、思わず頬が緩んでしまうようなほのぼのとした味わいが『醒睡笑』の良さかもしれません。数年前までは岩波文庫で手に入れることができましたが、現在では絶版になっています。ここでは二、三の小噺を紹介いたします。古本屋などをまめに回れば容易に手に入れることができると思います。興味のあるかたは、お探しになってみてはいかがでしょうか。

噺①
「人に噛み付く犬がいて、行くことが出来ない」という人がいた。ある人が「それならば、虎という字を手のひらに書いて見せれば、噛み付かない」と言いました。その後、犬に会い、「虎」という字を書いた手のひらを見せるが何のことは無く、噛み付かれてしまった。悲しく思ってある僧侶に話すと、「分かった、その犬は字が読めないのだよ。」

噺②
法事の席にて、僧侶が施主に向かって「今日の追善は六親のうちの誰の為か」と聞いたら「妹婿の舅の日なり」と言う。ただ「自分の親」で良いではないか。

噺③
或るところに老父がいた。ただでさえ目がかすむ年齢のうえに、暮れ方に、二階から降りようとすると、下に息子がいるのを客人と思い、大変丁寧な言葉で話しかけた。息子が「私です」と言うと。「そんなことは最初から分かっているけれど、お前のような世間知らずに、ちと礼儀を教えようと思ってお前にそのように言ったのだ」

（現代訳は編集委員会で行ないました。意味が通じるように多少意訳をしておりますがご了承下さい。）

「ブリラムを訪ねて」

鎌倉組　西念寺　冨田浩雅

去る二月二十八日から四泊五日の日程で、タイ国ブリラム県マンノンホン村タンマーメッター校に行って来ました。参加者は、鎌倉組の吉田・伊香輪・石井会員と私の四名でした。

早いもので、宮林雄彦会長の下、仏教国小学生支援事業としてブリラムの小学校に校舎を寄付してから、四回目の来訪となりました。今回は、初めてブリラムの学校を訪問する二名の会員が同行した事もあり、きちんと校舎を活用してくれているかが不安でした。前回伺った時は、地域の中学生から大人を対象に、警察官が講師となり麻薬撲滅セミナーを開催中の来訪という事もあり、百名以上の参加者で学校内も賑やかで活気に溢れていました。今回はどんなだろうと不安一杯で、六時間という長い車中もあっという間でした。

到着してみると、理事長・校長先生を始め学校の職員や、幼稚園児位の年齢の生徒、地域の人たち等沢山の方々が待っていてくれました。参道を通り正面の仏様を拝ませていただいた後、地域の方々の前で自己紹介を済ませ学校内を見学させて頂きました。どの校舎も、普段から活用している様で隅々まで綺麗に整頓されていて、凛とした空気に背筋がぴんとして心地良い雰囲気の中で見学が出来ました。見学終了後、職員の方々と色々な話をしている中、校長先生から学校の規模を大きくしていきたいとのお話を頂きました。学校の中心にあたる広場に、一五〇人の人が座って講演会などが出来る屋根付のタイル敷きのスペースを今年中に作る予定だそうです。今回の訪問者全員で些少ではありますが寄付をさせて頂きましたが、次回ブリラムに行った時にどのように変わっているか、楽しみでしょうがありません。今回初めてブリラムに行った二名も口を揃えて、ブリラムに行って良かったと言っていました。

ブリラムへは基本的に一年に一度、仏教国支援事業の実行委員会メンバーと参加者でブリラムの会を発足し、来訪しています。当時の会長の宮林雄彦上人も、時間の許す限り参加して頂いてます。

神浄青会員並びにOB諸先輩の方々、是非一緒に行きませんか。

卒業会員紹介

京浜組　大光院　宮林雄彦上人

浄青卒業者として活動の思い出や後輩へのメッセージを書けということですので、一筆申しあげます。ただ馬齢を重ねただけで皆さんにお話し、お伝えするような立場でもないのですが、卒業に当たって今まで自分が主体的に捉えてきた活動と二青年宗侶という立場にギャップがあるということを感じております。まあ十八歳の夏休みに夏見さんとその活動に触れて以来二十五年間、世代も二世代にわたってのお付き合いをさせていただいたことを考えると、活動の変遷と自らが持つ浄青のイメージとの乖離は当然のことでも思います。

私が感じた浄青活動の魅力とは、「人」の魅力そのものでした。浄青の会合に行くのは、その活動自体に留まらず会員の皆さんにお会いできることが、何よりも楽しみでした。純粋に研修を積み、そのあとあるべき姿を論じる。意見の食い違いから時には口角泡を飛ばすような激論も重ねることがありましたが、何か爽快感溢れるひとときでした。礼儀も教わりましたし、しきたりも身をもって示していただきました。感情の対立になりかけたこともありましたが、諭していただいたことは数え切れません。

浄青において自分なりに感じたことは、「やればやっただけ自分に返ってくるものが在る」ということです。今後は「人」的魅力にとどまらず多様なネットワークを可能にする組織作りも考慮していただきながら、益々の発展を心からお祈り申しあげます。

大変お世話になりました。

港北組　宗忠寺　夏見裕貴上人

昭和五十五年、当会に入会させていただいて以来、昨年度をもちまして卒業することができました。これも偏に、懇切丁寧なご教示やご指導を賜りました神浄青諸先輩をはじめとする現役会員皆様のお蔭と深く感謝する次第であります。

当会に入会させていただくきっかけとなりましたのは、所属組の港北浄青第四代麻生諦善会長の時代に、神浄青第二代会長を務められました柴田哲彦上人のもと、『選択集』の講義に参加させていただいた時と記憶しております。

その後、神浄青第十三代宮林雄彦会長と共に、当会の諸事業や研修会に参加させていただき、多くの事を見聞し、知識を深めさせていただきました事は、今も大きな財産となっております。

神浄青在籍二十五年間を通し一番の想い出は、やはりなんといっても平成十四年から十六年の一期二年にわたり、第十四代会長を務めさせていただいた事であります。会員諸師の英知を集結し、志を同じにし、力をあわせる事で、どんな困難な問題も乗り越える事ができる勇気をいただき、多くの諸事業を遂行させていただきました事は生涯忘れられない想い出であります。よく、「たかが・・・」「されど・・・」と言われますが、私自身浄青活動で培った経験を踏まえて現役会員の皆様にお伝えするならば、神浄青や上部団体である全浄青、関プロ浄青の諸事業や研修会に単に参加するのではなく、しっかりとした目的を持ち、意欲を持って様々な事業や研修会に参加し、自らの知識の高揚を目指す事で、近い将来必ず自坊の檀信徒教化や地域活動において活かせられるものと確信しております。どうぞ、三十年来諸先輩方が築いてこられた神浄青の伝統や法灯を次なる世代に、そしてさらなる節目に向けて継承していただき、生涯を通じての友情を育んでいただきたいと存じます。

最後に本日迄、多くの諸先輩、現役会員の皆様に支えられましたご恩を忘れる事なく、念仏弘通のこころをもってまいりたいと存じます。

神浄青が今後益々発展し、活発な活動をされます事を祈念申し上げ、卒業の挨拶とさせていただきます。

港南組　三佛寺　吉川瑞教上人

編集の方から今回の原稿依頼を受けたとき、殆ど浄青活動に参加しておりませんでしたので、何を書いたらよいのか困ってしまいましたが、振り返ってみますと幾つか懐かしいことが思い出されます。随分昔の話になってしまいますが、野呂幸忍師が会長のとき常任理事をさせて頂いたこともあり、金沢母子寮訪問、十夜法要念仏行進、他宗団見学、ホリデイ・イン横浜での全浄中央研修会などに参加させて頂き、特に中央研修会での充実感・達成感はそれまで味わったことのないものでした。その後、宗の事務所に勤めるようになってからは浄青活動から遠のいてしまいましたが、今回卒業させて頂くにあたり、今更ながら気付くことは、自坊に居るだけでは決して体験できないことを色々な形で体験させて頂いたのが浄青であり、そのことに深く感謝致しております。最後になりましたが、会員の皆様のご活躍をお祈り申しあげ、言葉整いませんが御礼のご挨拶とさせて頂きます。ありがとうございました。

京浜組　専念寺　佐々木淑公上人

中都組　円徳寺　吉永英之上人

第17期
マスコットキャラクター
シュンさま

新入会員紹介

①港北組
②念佛寺
③西井和雅
④昭和56年11月15日
⑤平成15年12月
⑥特に無し
⑦特に無し
⑧特に無し

①港北組
②清林寺
③渡邊清光
④昭和56年4月12日
⑤平成15年12月
⑥ラーメン
⑦山本梓
⑧ドライブ

①京浜組
②東明寺
③吉岡了真
④昭和58年1月17日
⑤平成15年12月
⑥特に無し
⑦特に無し
⑧特に無し

【質問内容】
①組名
②寺名
③氏名
④生年月日
⑤加行成満年月
⑥好きな食べ物
⑦好きな芸能人のタイプ（異性）
⑧趣味

①高座組
②来迎寺
③見学明彦
④昭和39年11月9日
⑤平成15年12月
⑥ラーメン
⑦山田優
⑧パソコン、サッカー

①鎌倉組
②貞宗寺
③山口圓馨
④昭和42年3月1日
⑤平成4年12月
⑥寿司
⑦特に無し
⑧スポーツ

①鎌倉組
②良心寺
③佐々木佑倫
④昭和52年4月4日
⑤平成13年12月
⑥スイーツ
⑦キムタク
⑧スポーツ

①鎌倉組
②眞福寺
③安井浄心
④昭和51年9月22日
⑤平成16年12月
⑥麺類
⑦竹内結子
⑧映画鑑賞

①高座組
②運光寺
③安藤祥人
④昭和55年6月5日
⑤平成13年12月
⑥特に無し
⑦特に無し
⑧サッカー

①高座組
②運光寺
③安藤尚人
④昭和50年4月9日
⑤平成9年12月
⑥穀物類
⑦松嶋菜々子
⑧世界各国中華街巡り・車に関連する事全て

①港南組
②法安寺
③戸谷瑞生
④昭和47年10月16日
⑤平成15年12月
⑥果物類
⑦渋いタイプ、おもしろいタイプ。
⑧スキー、旅行（島めぐり）

関東地方教化センター委員長争奪

第23回関ブロ浄青スポーツ交流大会

9月28日開催!

場　所：小田原市酒匂川スポーツ広場

懇親会：箱根湯本 吉池旅館

※雨天の場合は小田原アリーナにてソフトバレー

皆様のご協力よろしくおねがいします！！

マスコットキャラクター
シュンさま

編集後記

新体制での編集委員会も二年目を迎え、編集委員一同のチームワークもより強固なものとなりました。

また、紙面も一新、カラー化により読みやすくなったとのお誉めの言葉も頂くようになりました。今後とも、これにおごることなく、より一層、充実した内容で愛される紙面作りを心がけるよう、努力して行きたいと思っております。

編集委員会一同

17期編集委員会